

生徒会役員決定！第50回学祭に向けて

今年の学祭のテーマは「VORTEX」

～倉東史上、最高の学園祭を～



▲ 左から河野副会長、馬野会長、杉谷副会長
プロフィール (部活 平日の勉強時間 好きな食べ物)

河野みさ樹 卓球 目標3時間! 杏仁豆腐	馬野保希 ソフトボール 2時間程度 じゃがりこ (じゃがバター)	杉谷紗理 ハンドボール 2時間半 抹茶、きな粉、 さつまいも
-------------------------------	--	--

●立候補しようと思ったきっかけはなんですか？
馬野「人のために働きたい、行事を運営し、たくさんの人を楽しませたいと思ったからです」
杉谷「人の前に立ち皆をリードしていきたいと思ったからです」
河野「いろんな案を出し学校を盛り上げたかったからです」
●力を入れたいことは？
馬野「勉強、部活、行事

など全てを頑張れる生徒を増やしたいです。まずは自分が模範となり周りによい影響を与えられよう努力します」
杉谷「アンケート等での意見を反映し、みんなが生徒会の一員だと思えるようにしたいです」
河野「生徒一体となってどんなことでも頑張れる雰囲気を作りたいです。とくに今年は第50回目の学園祭なのでみんなで協力して成功させたいです」

4月16日に生徒会役員選挙が行われ、東高のリーダーとなる役員が決まった。生徒会長は3年1組の馬野保希(やすき)さん、生徒副会長は3年1組の杉谷紗理(さあや)さんと3年5組の河野みさ樹(みさき)さんが選出された。今回はこれからの方針などを伺った。

●第50回学園祭では特に何をしたいですか？
馬野「生徒全員が楽しめる企画を作りたいです」
杉谷「一人一人仕事をもち達成感をみんなで共有できるようにしたいです」
河野「生徒主体となり従来より盛り上げられるようにしたいです」
●最後にひとこと
馬野「僕も努力するのでみんなも僕についてきて下さい」
杉谷「勉強・部活・生徒会の三兎を追う気持ちで頑張ります」
河野「力不足ですが頑張りますので、応援よろしくお願いします」

学祭テーマ設定の理由は？

今年で50回目を迎える学園祭のテーマが決まった。「倉東五重奏」や「GO」、「革命」などの案が挙がったが最終的に「VORTEX」に決めた。この言葉には「渦」の他「周りを巻き込む」、「全勢力を注ぐ」という意味が込められている。また、「ローマ数字で5を」という意味は5を意味し、最初と最後の文字を組み合わせて50となる。第50回を記念して今までに無いものを創ろうという意味が込められている。みんなの力を集結し相乗効果を発揮した盛り上がり期待される。

創立記念日OB講演会開催

可世木博氏「生殖医療現場から若い人に伝えたいこと」



▲ 講師の可世木博先生

4月15日(火)の創立記念OB講演会に可世木レディ・スクリニック院長の可世木博先生が講師として来てくださった。生殖医療現場からの目線で、今の現状と私たち高校生に何が出来るのかを語っていただいた。講演の中で強調されたことは、妊娠に対する正しい知識を身につけてほしいということであった。例えば、35歳以上の自然妊娠は難しいということである。子供が欲しいと思った時にいつでも思い通りなるわけではない。また、体外受精の成功率も年齢とともに低下してくことを繰り返し話された。そして、今の高校生には閉鎖的にならず、多くの人とかわりを持ちたり、社会貢献の意識も持ち続けたいと語られた。

また、その後に行われた座談会でも生徒からの質問に、熱心に答えてくださった。中でも「命の始まりはいつからなのか」、「人工妊娠中絶はどこまで許されるのか」など胎児の生命倫理に関する質問がとて多かった。だが、そのような問題は医療現場からの目線と社会からの目線の違いがあるために、確定するのはとても難しいという。

生命倫理の問題は法律だけでは決めきれず、多様な価値観や倫理観をもとに判断する必要がある。まずは正しい知識を身につけることが大切だと感じた。今回の講演をプレコンに活かしていこう。(文責・村口七海)

中国大会出場おめでとう

バスケット部・ハンドボール部・アーチェリー部

中国大会鳥取県予選が行われソフト部男子、バスケット部男子、アーチェリー部が優勝した他、卓球部陸上部、ハンド部男女も中国大会出場を決めた。今回は、バスケット部長久文晴葵さんとアーチェリー部長の岸根颯一郎さん、ソフト部部長の野口侑太さんにお話を伺った。



▲ 35年ぶりに優勝した男子バスケット部

バスケット部・久文晴葵さん練習でやってきたことを発揮できたこと、また控のメンバーもそれぞれ役割を果たせたことで春の県大会で優勝することができた。総体までは質にこだわった練習を

ソフト部・野口侑太さんソフト部は「誠実で粘りをモットーに日々頑張っている。今大会は一人ひとりが「責任」を果たし優勝できた。総体でも絶対に優勝し、インターハイでは全国選抜のベスト16以上の成績を収められるよう頑張りたい。